

2026 海員春闘 [中央交渉]

全船団がベースアップ満額回答

日本カーフェリー労務協会・内航二団体・全内航が4年連続の英断

労働協約の有効期限（3月31日）まで粘り強く鋭意交渉を展開

松浦満晴組合長のあいさつ

日本カーフェリー労務協会との令和8年度労働協約改定交渉の妥結にあたって

はじめに2月末に発生したアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃によりホルムズ海峡が事実上封鎖され、日本関係船舶に乗り組む日本人船員をはじめ多くの船員がペルシャ湾内に取り残されており、いまだ解決の見通しが立たない状況下、船員の生命と安全が危惧されております。

また、その影響は全世界のエネルギー供給に混乱をきたし、わが国においても国家備蓄を放出するなど原油の供給量が不透明な状況にあります。

このような中、交渉委員各位の自主円満解決に向けたご尽力の結果、特に賃金においては、4年連続となるベースアップの満額回答をはじめ、その他項目についても一定の水準で解決に至ったことは、これまで培ってきた労使の信頼関係はもとより、労使双方が業界の抱える問題の解決に向け、真摯に協議した結果であると考えております。

野口交渉委員長をはじめとする、交渉委員各位のご尽力に改めて敬意を表します。

わが国においては少子高齢化が進み、生産年齢人口は年々減少していく中、人材不足が顕在化し、後継者の確保・育成はあらゆる産業において喫緊の課題です。大型カーフェリー業界においても、船員の高齢化や若年層の定着率の悪化などにより、労働力の確保は必要不可欠となっております。今後、あらゆる産業との人材確保競争がますます激化していく中、賃金をはじめ、将来にわたって安心して働くことができる職場環境の構築に向け、労使が一体となって取り組んでいかなければなりません。

最後になりますが、今次労働協約改定交渉の結果が、船員職業の魅力向上、後継者の確保・育成はもとより、大型カーフェリー業界のさらなる発展につながるものと確信しております。

今後も、労使の信頼関係に基づき、業界が抱えるさまざまな問題に対して協力して取り組んでいくことをお願い申し上げ、組合を代表してのあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

「海員だより」